

ラーチャブルック ราชพฤกษ์

※「ラーチャブルック」はタイを代表する花、ゴールデンシャワーをタイ語で表現したものです。

校長 谷口 幸一郎

9月を迎えて

夏休みも終わり、9月に入りました。二学期も配信による授業でのスタートになりましたが、防疫措置緩和という明るい情報が飛び込んできました。登校再開には、関係諸機関から厳しい条件がつけられることが予想されますが、しっかりと準備を進めていきたいと思えます。ただそれまでは**配信による授業を継続**することになります。子供たちをはじめ、保護者の皆様、そして教員も**今できること着実に重ねていくことが大切**です。様々な面で、保護者の皆様の協力や支援をいただくことになると思いますが、よろしく願いいたします。また、子供たちが少しでも**有意義な時間を過ごせるようなアイデア**などがありましたら、是非お知らせください。他のご家族にも紹介し共有していきます。



さて、外出することがままならない夏休みの3週間を皆様はどのように過ごされたでしょうか。この期間はオリンピックやパラリンピックが開催期間と重なり、今もパラリンピックは続いています。大会延期や無観客試合などアスリートにとっては過酷な状況でしたが、今回は日本人の活躍をたくさん見る事ができました。特に目を引いたのが、オリンピックに初めて取り入れられた競技での**10代の選手の活躍**でした。スケートボード、彼らがこの競技を始めた時にはオリンピックの競技種目になるとは夢にも思っていなかったことでしょう。競技の中で、入賞した選手やそうでなかった選手が、**お互いに相手の技を認め、称賛**を送っているシーンがとても印象的でした。そして、「**相手は、敵でもライバルでもない。仲間です。英語はしゃべれないけど、何とかコミュニケーションをとります。**」と12歳の**開心那**選手がTV番組で話していた言葉には、利害関係にとらわれずに純粋に競技を楽しむ気持ちがあふれていました。その気持ちが銀メダルにつながったのだと思えます。

ところで、子供たちは今回の大会をどう感じたのでしょうか。今回のオリンピックの出場選手のエピソード、例えば、**池江 璃花子**選手、**内村 航平**選手のオリンピックにかけた思いなどはとくに、挑戦することやスポーツについて、ひいては**人生について考えるお手本**になると思えます。また、パラリンピックへの出場者についても、生まれつき障害があった選手や交通事故などで障害を負った選手など、それぞれの選手の**生き方に触れる機会**を作ってみてください。



オリンピックで思い出に残っている出来事の一つに1984年ロサンゼルス大会柔道での決勝戦があります。優勝したのは現日本オリンピック委員会会長の山下泰裕選手ですが、決勝の相手はエジプトのモハメド・ラシュワン選手でした。もちろん、山下選手の強さがあっての金メダルだったのですが、ラシュワン選手の正々堂々とした戦いぶりこそ、子供たちに知っておいてほしい行動です。(コーチの指示に従わず、怪我をしている山下選手の足を決して攻めなかった。)彼の行動を「**もし、自分だったらどうするか**」考えてみさせてみるのも、いいかもしれません。

(ちなみに高校時代に山下泰裕選手と対戦したことのある友人によると、山下選手は岩のようで少しも動かすことができなかったそうです。組んだ瞬間、負けを確信したそうです。)